

 Y's Men's
World



国際会長メッセージ



国際会長 フィリップ・マータイ

兄弟、姉妹のみなさんへ

この度は、新国際会長としてみなさんにメッセージを送ることが出来大変光栄に思っています。この夏スタバングルで行われた国際大会・ユースコンボケーションも大成

功を収めました。独創的で記憶に残る大会になるよう大変な努力をしてくださった、大会実行委員の皆さんに感謝致します。

すべての奉仕団体は地域社会への奉仕に力を注ぎ、それぞれが立派な目標に向かい活動をしています。私たちワイズメンズも「強い義務感をもとう、義務はすべての権利に伴う」という崇高なテーマを掲げており、権利よりもまず私たちの義務が何かを思い出させてくれます。私たちは、母体である YMCAと共に、隣人を汝のごとく愛せというイエス・キリストの教えに基づき活動を行っています。どんな奉仕団体にとっても最終的な目標は1つ、愛を持って他人に良いことを行うことです。

私たちの活動はすべての宗教、人種、カーストそして信念をも包み込みます。あらゆる面においてユニークな奉仕団体だと言えるでしょう。しかしその規模は小さなものです。小さくても素晴らしい団体ですが、それは同時により良い活動を行うための人材や資源に制限があるとも言えます。

この状況から考えて私は以下のプログラムを提案し、達成に向けて同僚たちに力を注ぐよう呼びかけたいと思っています。

1. クラブ拡張: 目標は毎年ごとに新たに3か国にワイズダムを広げ、2022年までに最低100ヶ国での拡張を目指します。
2. 会員増強: 今年、200の新しいクラブ発足と3000人のメンバーを入会させるよう提案します。
 - a) 実行計画: 各年、クラブごとに3人メンバーを増やしクラブを国際投票権のあるクラブにする。
 - b) 大学等でワイズダムのメッセージを発信しユースメンバーの入会を促す
3. 地域社会事業
 - a) 各地域社会で最も必要とされるものを与える。例えば、全ての人への教育、若者や老人へのお世話、貧しいながらも優秀な学生の採用、崩壊過程の家族へのカウンセリング、孤児の世話や女性解放などです。
 - b) 各クラブでボランティアを形成する。地元のYMCAメンバーや非会員の方を交えて社会の恵まれない地区を助ける
 - c) “ゴ・グリーン・プロジェクト”を各クラブで実施する。
メンバー1人につき花の美しい木もしくは有用性のある苗木10本を植え、育てる。母なる大地の環境バランスを保ち子孫へ安全な生活環境を残す。
4. 歳入: 可能なメンバーには、国際会費を満額支払うように促す

5. 国際事業: 全ワイズメンズクラブに対し、前年の10%増で献金を行うことで国際事業・国際プログラムへ活発な参加を促す。

最後に、兄弟・姉妹の皆さん、今こそ「思いを具現化する」時です。プラトンの実用的理論を実践に移しましょう。恵まれず困難な状況にいる兄弟、姉妹のため働きかけましょう。神様と共にあればどんなことも可能です。神を信じ、ご自身と周囲の何千人もの人々の人生を変えましょう。信念を持ち、世の光となりましょう。神は祈りを奉げる者のそばにいます。神が道を示しお守り下さいませ。

皆さんからのご支援、ご教示によって2012-2013年度をこれまでで最も良い年にしていきたいと思えます。皆さんに神のご加護がありますように。

お便りと返信

Hylites 編集者 Trish Geddes

カリフォルニア Seal Beach Leisure World Y サービスクラブ 編集担当者様へ

2011-2012年度 IPブリテン第4号を興味深く読ませて頂きました。ワイズメンズ国際リーダー達によって書かれた記事が読めるのを嬉しく思っています。

この手紙は、編集者へ立候補するためではありません。私はある1つの問題によってこのブリテンがとても読みにくくなっていると感じているのです。それを知って頂きたいと思ってお手紙を書きました。その問題とは繰り返し使用される、英語の大文字で書かれた略語です。最初に略語を使う時にそれが何なのか書かれていないため、略語だらけで分かりにくくなっています。例えば ISG, IHQ, ICMS, PIP, IPE, IEO, IFRC, MYM, ICIなどが挙げられます。

おそらく、文字数を減らす目的であったり長年活動をしているワイズメンズクラブメンバー間のやりとりの利便性を考えてこれらの略語が使われているのだと思います。しかし、読者の中には略語に詳しくない新しいメンバーの方々もいるのではないですか。ご検討くださいますようお願い致します。

ワイズメンズワールド編集長 アラン・ウォーリントン



親愛なる Trish さん

時に編集者とは読者に言葉や写真を届けることから立ち止まる場合があります。私にとってそれは今回あなたからの手紙を受け取った時でした。ワイズメンズとして長い経験から、新しいメンバーに何が必要かを忘れてしまう事があります。その間

題をご指摘頂けてとても感謝しています。編集者にとっては確かに文字数の制限は課題であり、そのため略語の使用が欠かせません。しかしこの問題に関して1つ、お願いしたいことがあります。最も頻繁に使われる略語 (IP, IHQ, ICM など) に関しては今後も使用することです。これらはとても頻繁に使われているため、すぐに慣れて頂けると思います。

本部とも話し合った結果、私達が使用する略語の一覧をホームページに掲載しました。ダウンロードは www://Ysmen.org/index?id=871 へアクセスして下さい。

*Yours in Y'sdom
Wally*

Rio+20

ケニア ナイロビ南ワイズユースクラブ
クリフォード・オロンディ

Rio+20とは一体何だったのでしょうか。1992年リオで開催された地球サミットから 20年、Rio+20は各国の代表や関係者を集め持続可能な未来について話し合うために国連が主催しました。ケニア、ブラジル、ノルウェー、スウェーデン、アンゴラ、韓国、アルゼンチンそしてザンビアから 34名のユースが参加をし意見を発表しました。私は幸運なことにノルウェーのグローバルY (KFUK-KFUK) から旅費を、またワイズメンズ国際協会からも一部滞在費と食費のご支援を頂きました。

最初に訪れたのは、リオデジャネイロにある Ilha AMC (YMCA) でした。YMCAメンバーとして、国から遠く離れた

場所にも関わらず暖かい歓迎をして頂きケニアにある地元YMCAにいるような気持ちでした。イベントではキャンプを始め、YMCAと



Ilha YMCA周辺にある地域学校の清掃に訪れた代表者達

持続可能な発展に向けた関係について対話を行いました。他にも周辺地域と共に組織を作り活動をしている YMCA代表者達と共に、Ilha AMCの近辺で奉仕活動を行いました。全体で約 600名を動員しマングローブの清掃や他の地域事業・公立の学校への訪問を行いました。

YMCAは会議開催中 Rio+20のサイドイベントとして、韓国とレバノンの環境省、スウェーデンの環境大使、そして UN-HABITAT (国連人間居住計画) からはユース参加に関するスペシャリストをベネリストにお迎えしました。YMCAは民間の

社会組織として参加し、この会議は Rio+20の中でも最も前向きなものとなりました。YMCAからのユース参加者達は世界のリーダー達に将来への展望を述べ、私達皆が望んでいる将来を創るよう訴えました。

地球市民という概念に私を心地良さを感じています。世界YMCA同盟では友情の下世界各地から YMCAが集結し地球の問題について話し合います。特にユースは今ある世界をより良い持続可能な世界に変化させてくれるでしょう。

YMCAは眠る巨人です。いよいよ目覚めの時が来たのです。世界にYMCAメンバーは約 5千 800万人います。この人数で世界を大きく変えることが出来ます。若者の無職、ジェンダーに基づく暴力、貧困、気候変動に基づく問題など様々な困難があります。YMCAは数多くの素晴らしい活動をしているのですから、共通のアイデンティティとして、グローバルアイデンティティを確立させるべきではないでしょうか。



Rio+20 ユース代表者達

新たなエンブレムを発表

By Fred Leonard, Chairman Image Task Force

表紙ページに掲載した新しいエンブレムをご覧ください。ノルウェー・スタバンゲルで開催した国際議会 2012にてイメージ・タスクフォースが提案したもので、Y's Mens Clubの文字を三角形の中から取り除き簡素化されたエンブレムです。

これにより、歴史あるエンブレムの形を受け継ぎながらも組織のシンボルを簡素化することが出来ました。西洋文化で多くの現在及び未来の女性メンバーが反対する男女差別的なイメージを拭い去り、良い特徴をもたらしました。

あなたが求めるエンブレムとは？ 憲法のガイドライン 103にエンブレムについての記載があります。—ワイズメンズ国際協会の名が使われる時は、組織を示すエンブレムを含まなくてはならない—と書かれています。以前のエンブレムには著作権がありました。新しいデザインの権利保護も現在行っています。

地球儀はどうなったのか？タスクフォースは地球儀の絵柄をワイズメンズのロゴの象徴と呼んでいました。地球儀の絵はエンブレ

レムが出来たあとに考案され、憲法に記載がないにも関わらずメンバー間で広まっていた。しかし地球儀の絵の著作権は存在していません。今後も希望する場合は地球儀のロゴを使用できます。しかし新たなデザインを反映するために三角形からは変更させて頂きました。

色についてはどうですか？新しいデザインでは3色使われていることにお気づきだと思います。赤、青そして金（黄）です。今後は3色でロゴを使うのも、また星を金もしくは黄で塗らず、青の縁取りだけで2色使いにするのも結構です。

現在使っている物品、エンブレムはどうなるのか？この新デザインは時間と共に少しずつ取り入れます。今残っているピンなどは今後も使用する予定です。お手元のピンをご覧ください、Y's Mens Club という文字が見えますか？おそらく見えないと思います。新たに物品の注文を受けた場合は、新たなデザインになっているでしょう。

もし古く大きなエンブレムをお持ちで違いが目立ってしまうという場合、可能な時に新しいものとお取り換えください。ニュースレターや通信では出来るだけ早く新しいデザインを使用してください。新しいエンブレムはどこで購入出来ますか？皆さんがこの記事を読む頃には国際協会のホームページより高画質の画像をダウンロード出来ると思います。上で述べたように3色、2色、1色のフォーマットからお選びいただけます。同色のロゴもあります。詳しくは <<http://ysmen.org/index.php?id=118>> をご覧ください。

またイメージ・タスクフォースは、イメージ向上に向けて何年間も考えてきました。エンブレムの現代化と共に、私達組織の包括的呼称を「International Association of Y Clubs」と変更する内容を提案し、議員は満場一致でその提案を承認しました。この名前の変更を施行するにはクラブの3分の2の承認が必要です。一つ強調したいのは、これによる各クラブ、区、エリアの名称、もしくは私達自身の呼び方などには一切変更が無いということです。より詳しい情報は、年内に次期国際会長投票の票をお送りする際に同封します。

イメージ・タスクフォースのメンバー：議長・アメリカ Fred Leonard さん、アフリカ Jared Musima さん、アジアエリア Cary Fong さん、カナダカリブ海エリア Sandy Reynolds さん、ヨーロッパエリア Alan Willington さん、インドエリア Issac Palathinkal さん、ラテンアメリカエリア Christian Arancibia さん、南太平洋エリア Colin Lambie さん

ICM 2012 ハイライト

国際書記長 (ISG) 西村隆夫

国際大会実行委員の皆さんは、この夏ノルウェー・スタバングルを訪れた全ての人のために素晴らしい大会を創ってくれました。その様子が7ページから10ページに記載されている写真か

らお分かり頂けると思います。地域特有の天気や楽しい観光、ホームデザイナー、ユースによる力強いプレゼンテーションはもちろんですが、今回世界 YMCA 同盟の書記長である John Eltvic さんの情熱的な基調講演(※)を聞くことが出来たのは非常に幸運でした。YMCA にとって最も大切な目標は何かを語り、また世界中の 200 ものチェンジ・エージェントを支援するという課題を示してくれました。あなたのエリア、区ではいくつのチェンジエージェントを支援出来ますか？

ISG 報告では、私が ISG オフィスに入って最初の2年間で目にしたことについてお話をしました(※)。どのようにして YMCA とのパートナーシップが実現したのかを説明しましたが、それは YMCA の会長や書記長によるクラブのチャーターから始まるというユニークなもので、これを知り共有することで大きな励みになるでしょう。

ロールバックマラリアのプレゼンテーションでは、事業コーディネーターであるジェームズ・オレさんが IFRC (国際赤十字・赤新月社連盟) と行ったケニアでの体験を基に素晴らしい発表をしてくれました(※)。前 ISG である Roland Dalmás さんがワイズメンズの動機と障害についてパワーポイントを使い分かりやすく話してくれました(※)。

ワイズメンズの大会の素晴らしいところは、古い友人や新しい友人と出会えることだけではありません。互いに学び共有を行う事で YMCA やそれぞれが属する地域社会に対して継続的に奉仕し、活動を強められるのです。

2年後、インドのチェンナイ(マドラス)で行われる IC14 で再会しましょう。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

※上記の4つのプレゼンテーションは、IHQ ホームページにてご覧頂けます。<<http://ysmen.org/index.php?id=863>>

YES ゴールド賞

YES 国際事業主任 Poul-Henrik Hove Jakobsen

ノルウェー・スタバングルで開催された国際大会において、南インド区チェンナイにあるマイナポーレ出身の Jacob Vargehese さんに初の個人別 YES ゴールド賞を授与させて頂きました。

他にも南インド区から P.V.Kurian さんと Tony Vincent さんが受賞されました。共にバンガロール・ミレニアム出身で 250 スイスフランを Y's クラブ拡張支援プログラムに寄付して下さり私達の良い手本



初の YES ゴールド賞を受賞された Jacob Annand Vergehese さん

となってくれました。上記の3名は皆 YES のゴールド賞を受賞されました。おめでとうございます。

YES への寄付金は将来への投資です。各エリアや区の支援を受けクラブ拡張に使用されます。3分の2は自動的に寄付をして頂いた地区に還元され、残りの3分の1はエリアからの申請に応じて MYM が決定しています。

YES への寄付は国際会長フィリップ・マータイさんが掲げる2022年までに100カ国で5万人のメンバーを集めるという目標達成のカギの1つとなるでしょう。目標を達成するには多くの資源が必要です。障害も多くあるとおもいます。しかし障害の一つが資金不足であってはなりません。そのため YES への寄付はとても重要です。

各クラブでのメンバー一人につき10、20ないし50スイスフランの寄付をして頂くと YES アワードが受賞出来ます。賞は金額に応じてそれぞれ金、銀、銅となります。個人別の場合は250スイスフラン以上の寄付に限り、ゴールド賞が与えられます。

新たな大会経験

デンマーク ランダーズワイズメンズクラブ Leif Repsholt

2011-2012 ワイズメンズワールド第3号の最後に、ノルウェーのワイズメンズによるスタバングル国際大会のホームディナー案が掲載されていました。スタバングル地区の13のクラブが海外からのメンバーを招待し、各家庭で伝統的なノルウェー料理を振る舞い思い出を創ってもらおうと計画したものです。そして、それは本当に素晴らしいものとなりました！

金曜の午後、綿密な移動手段の計画に沿って全ての参加者がスムーズに家庭へと向かうことが出来ました。食事はノルウェー風に調理されたサーモンに続きイチゴのアイスクリーム添えをデザートに、そして最後はコーヒーとチョコレートケーキが振る舞われました。

私が訪れた南スタバングルの家庭には、ロシア・エカテリンブルグからの参加者が2人、台湾から1人、そして私の妻が共に参加をしました。迎えてくれたご夫婦は現在年金で生活をされているとのことで、また英語に自信があまりないからと教鞭をとっている義理の息子さんを招かれ、計8人でテーブルを囲みながら忘れられないひと時を過ごしました。始まりと終わりにノルウェー人である3人が、歌を歌いノルウェー流のお祈りを行ってくれました。その後は皆で色々なことを話したり、話に聞き入りたりしていました。

3時間という時間の中で、数多くの興味深い話や質問がありました。お互いの家族のことやクラブの話、社会、宗教、そして文化について話をしました。もちろん言語の問題もありましたが、義理の息子さんに助けて頂きました。私達はみんなリラックスし

世を照らす光となろう

ながら打ち解けた夜を楽しく過ごすことが出来ました。

そしてその後は、他の多くのメンバーからも素晴らしい経験をしたという声を聞きました。こんな素晴らしいアイデアを考え実行に移して下さった主催者の皆さんにありがとうと心からの感謝を申し上げたいと思います。



Arneさん宅のディナーの様子



Leifさん宅のディナーの様子



振る舞われたノルウェー・サーモン

ホームディナー、ホスト側の視点から

ノルウェー Hinna ワイズメンズクラブ Arne Augedal

ゲストの方をレストランではなく家庭でもてなすのはノルウェーの伝統でありおもてなしの心です。それを踏まえて、2012年国際大会において金曜ホームディナープログラムのホストになれたことは本当に嬉しく思っています。私達の所にはブラジル、台湾、日本そしてノルウェーからのゲストが参加をしました。幸運なことに皆さんが英語でのコミュニケーションが可能で、食卓は素晴らしい空気で包まれていました。

シェフとして皆さんにお食事、特に庭で摘んだイチゴを使ったデザートを楽しんで頂けたのが嬉しかったです。お天気にも恵まれ、近所を散歩することも出来ました。それから再びテーブルに着き、コーヒーや紅茶と共にケーキを食べつつ楽しくおしゃべりも弾んでいました。ですから、もう時間になったので皆さんをジャズ演奏にお連れしなくては—とお伝えするのが本当に残念でなりません。こんな素晴らしいひと時がまだ終わって欲しくないと願いましたが、何事にも時間はつきものです。

STAVANGER NORWAY 2012
Y's men 70th INTERNATIONAL CONVENTION



国際役員メンバー、ご婦人を同伴されて



ノルウェー フィン・ペデルセンさんと
インド フィリップ・マータイさん



2人の式典担当者



台湾 Fuan-Ching Tsai さんと
カナダ Earl Foster さん



世界 YMCA 同盟書記長、John Wilhelm Eltvic さんの
基調講演の様子



国際ユースコンボケーション参加メンバーによる
プレゼンテーション



参加者は Gloppenhallen でのディナーを楽しみました



写真の協力をして下さった Arne Augedal さん、Earl Foster さん、Arne Toftøy-Andersen さん、Stein Gjeruldsen さん、どうもありがとうございました。



Gloppenhallen にて Bjerkreimringen によるノルウェーフォークダンス披露



バランタイン賞を受賞された Silvyta Reyes さんと Jim Muller さん



チリの Cristian Arancibias さんと Alejandra Moline さん



大会終了後のバーベキュー



バーベキュー後のくつろぎのひと時



次回の大会に向けて計画を始めましょう

大会の印象

ヨーロッパエリア 書記 Irina Mamaeva

スタバングルで開催された第70回国際大会に参加して分かったことを、主に3つお話しします。

1. ワイズメンズクラブの活動は上手くいっているが問題もある。私の意見としては、若者の間で活動をどう広げるかが一番の問題である。

2. 私たち組織のリーダーには明確な目標と達成への十分なエネルギーが備わっている。それはIP フィリップ・マータイ氏とIPE ポール・V・トムソンさんからのスピーチで伺える。

3. クラブメンバーは自らのエネルギーをつぎ込むことで目標を達成できる。来年はロシア・エカテリンブルグ出身の Olga Vozchikova さんがヨーロッパエリア理事に就任することを踏まえ、ロシアがヨーロッパエリアのワイズダム発展に大きな役割を果たすことになるだろう。私は新任リーダーの一人となったことを嬉しく思い、誇りだけではなく同時に強い責任も感じている。

私が大会で最も感激したのは、ノルウェーの人々でした。若いとは言えませんがエネルギーに溢れ朝から晩まで活動し参加者全員に対して自分の家にいるような居心地良さを感じさせてくれました。特にホームビジットの際は本当に自分の家に帰ったかのような気持ちになりました。私のホストを務めてくれた Jon さんと Helen Kjosavik さん、素敵な夜をどうもありがとうございました。私たちは皆1つのチームのメンバーであり、どんな難題にも立ち向かう力を授けてくれます。ありがとう、ノルウェー！



た。8つの国から55人のワイズメンズがこのハイキングに挑みました。まずフェリーで40分、スタバングルからTauへ移動します。そこから更にバスで30分かけて、プレーケストーンヒッタに向かいます。そこから往復12kmの道のりです。

ハイキングを始める前全員にハムとチーズのサンドイッチ、飴、ナッツ、干しブドウと2本のペットボトルの水が配られました。中にはバックパックを借りた方もいました。これは険しいハイキングです。途中の道では大きな岩がころがっている間を進んだり、平坦な道もあれば急な山道まで様々です。砂利道や湿原もあります。海拔270メートルに位置する駐車場から岩のある海拔604メートルまでを登ります

その日は岩に上るにはちょうど良いハイキング日和でした。しかしバスに戻るころに雨が降り始めました。グループを一つにしようと思いましたが、調子の良い人とそうでない人で別れてしまいました。道の途中で休憩をはさみ、昼食を取りました。

素晴らしいハイキングを経験し、後からメッセージをくれたオーストラリア人参加者の方はこう言っていました。「素晴らしいハイキングをありがとうございました。私たちは皆頑張ることができ、また本当に良い経験となりました。」



プレーケストーンへハイキング

ノルウェー Madlamark ワイズメンズクラブ Tore Marthinsen

スタバングル国際大会が終了した翌日の月曜日、地元の主催者はローランドワイズメンズクラブからの引率者を筆頭にプレーケストーンへのハイキングを企画しまし



ワイズダムの調和

東日本区 川越クラブ 利根川恵子

インドは「多様性の調和の国」と言われています。ブラザーフード基金より全額支援を頂き、2012年1月の3週間インドに滞在出来たのは誠に幸運でした。インドが持つ多様性にも関わらず、ワイズダムの調和が具現化されているのを見て取れました。

ほぼ毎日私は個別のクラブ会議や、いくつかのクラブが集まる集団での会議、部会や区の会議に誘っていただきました。「家族と共に進もう」というスローガンからも分かるように、どの会議でもワイズメンズ、ワイズウイメン、ワイズメネットそしてコメットが参加をしていました。会議の後にはいつもコメット、もしくはワイズメンズ及びワイズウイメンによるエンターテインメントプログラムがあり、その後も夕食を取りながら賑やかなフェローシップアワーが続きます。会議はいつもワイズダムに対して献身的で、情熱にあふれていました。インドエリアが急成長をしているのも頷けます。拡張に向けて、特別な時だけではなく日ごろの月例会にも家族で参加をすることを促すことが必要だと強く感じました。



地域社会に奉仕をしている時でも、インドのワイズメンズの皆さんは自分たちも楽しみ成長することを忘れません。ある夜 Bangalore Peenya クラブの方々が、翌週行われる区の合唱コンテストに向けて真剣にクリスマス・キャロルを歌う練習をされているのを拝見しました。

他にも刺激を受けた素晴らしい経験がありました。タイム・オブ・ファスト (TOF-GP) を行っている場へ訪れた時のことです。TOF-GP 支援を受けている HIV 陽性患者のための2つの医療機関を見学しました。ここが無ければ患者の皆さんは診断も治療も受けることが出来ません。TOF-GP 支援活動への参加がいかに大切であるかがよく分かりました。

インドのクラブが行っている幅広い地域社会奉仕の事業は表彰されるべきです。孤児におもちゃや文房具を提供するお手伝いや救急車への支援、障害のある貧しい人には整形外科手術を無料で行うなど様々な事業が行われています。経済と社会の構造に大きな違いがあるため、インドのCS事業にはより多くの資

金と根気が必要です。

私のホストファミリーとなり家に受け入れ、インドに居ても日本に居ても私たちがワイズファミリーとして1つであることを教えてくださいました。16家族のホストの皆さんに深く感謝の意を表したいと思います。この場で全員のお名前を挙げることは出来ませんが、私の心の中にはいつも特別な場所があります。みなさんの温かいおもてなしとやさしさを一生忘れません。全てのご家族が私に伝統、文化そして歴史を教えてくださいました。

この報告書の最後に、日本のワイズメンズ・ワイズウイメンの仲間の皆さんに私の経験を共有出来るよう努める決意をここに記したいと思います。そうすることでインドワイズメンズの方々が私にもたらしてくれた寛大さとおもてなしに対してのお返しをしたいと思っています。



初めての国際議会

ワイズメネット国際主任 Grete Baekgaard Thomsen



私はスタバングルで初めての国際議会参加を果たしました。ワイズメンズメネット国際主任としてわくわくするような経験でした。

最初にデンマーク人女性の議会での話し方が異なることに気が付きました。会議を行う正式な方法とルールがあることを私は知りませんでした。そのルールを破ると、象をかたどった罰金箱に罰金を払わなくてはなりません。その罰金は TOF-GP となり、重要な案件で埋まっている長い会議に彩りを添えました。

次にワイズメネットの会議も行いメネットとワイズメネットの違いを議論しました。これらの名称には長い歴史があります。現在「メネット」という言葉はワイズメンズと結婚をした女性を指しており、「ワイズメネット」とはワイズメネットクラブに参加を決め

た女性を指しています。そしてワイズメネットクラブは既にワイズメンズクラブの副次的なものではなく、地元のワイズメンズやYMCAそして地域社会を支える独自のプログラムを展開しています。地域のワイズメンズクラブとワイズメネットクラブの巧みな協力によって、全ての人に利益が生まれています。

今後ワイズメネットの皆さんと綿密な連絡を取りながら、世界中のワイズメンズと協力していくのを楽しみにしています。

飢餓へのコンサート

東韓国区 釜山部長 Shin Kwan-uh

タイム・オブ・ファスト事業は多くの支援を頂いています。東韓国区の釜山部でも、釜山文化センターで大きなコンサートを行いました。私たちはより多くの共感を呼ぶためこのコンサートを「愛ある友と出会おう」と名付け釜山市民を招待しました。

ワイズメンズメンバーであり有名なニュースキャスターでもあるHan-Beong-changさんにお任せ出来たのはとても幸運でした。またアーティスト・Happy EnsembleさんやKBC子供合唱団、歌手のHam Jungaさん、Ryu Simchoさん、そして常任指揮者であるHong Seong-teakさん率いるNeophilオーケストラをお迎えしました。釜山市民とワイズメンズメンバーを合わせて千人以上が参加をし、寄付金も712万3千ウォン(6万8千ドル)を集めました。素晴らしいパフォーマンスはどれも大変な賞賛を受け、割れんばかりの拍手が起こりました。

コンサートでは実際に世界の難民が抱えている飢餓問題について、TOF-GPの活動を映したビデオを上映しました。多くの方がこの問題について支援をする大切さを理解できたとコメントし、また韓国のような先進国が世界の飢餓に苦しむ難民の問題を啓発していく責任があると述べました。

2012-2013年度 国際選挙について

2013-2014年度 次期国際会長選出のための国際選挙が間もなく行われます。全クラブが2012年12月にRD(区事務所)もしくはインドエリアであれば区理事より、クラブ投票用紙を含め必要なものをすべて受け取るようになります。12月末までに送られてこない場合はIHQ(ihq@ysmen.org)までご連絡下さい。

国際選挙でクラブ投票を行うのは皆さんの権利です。権利を持って、是非投票を行ってください。

新たなクラブを新たな国に

ノルウェー Kråkerøy Mixed YMC Mart Torp

2012年4月にPatzunワイズメンズクラブがチャーターされたのは歴史的な出来事でした。中央アメリカに位置するグアテマラで初めてのクラブです。Patzunは山中の小さな町で、中心部であるグアテマラ市より車で1時間半ほどのところにあります。ノルウェーFredrikstadにあるKråkerøyという場所は、25年に渡りこの町と友好関係を持っています。主にマヤ人が住んでおり、これまでもお互い訪ね行き来していました。



Patzunワイズメンズクラブの皆さんにご健闘をお祈りします。そしてようこそワイズファミリーの世界へ!

Patzunワイズメンズクラブがチャーターされた時メンバーは20名でした。Patzunワイズメンズクラブはお祝いのための部屋を用意し、ロゴや花、ろうそくで飾りました。14人のゲストが招待されそこには新しいクラブの連携に大切なPatzun市長とグアテマラ市のYMCAリーダーも含まれていました。チャーターの際私は一人ひとりに小さなろうそくを渡し、キリストの光の象徴として大きなろうそくで火を灯しました。これはKråkerøyクラブ自身も聖書とスポンサークラブの写真と共に、近隣のクラブにして頂いたことです。Kråkerøy MYMCのメンバーは20人全員のためにチャーターされた日付をしおりに刺繍しました。そして前会長であるRagnhild Holteさんによりそれが手渡されました。また、この新しいクラブと世界中のメンバーが繋がることを祈り2010年横浜国際大会のピースバードが付いた花冠も贈られました。

小さな種から始まる

ウガンダ Jinja ワイズメンズクラブ Lambert Okure

私は1995年からYMCA Jinja支部のジュアスタッフとして活動しています。田舎で行われているYMCA Jinja事業には定期的に訪れる人々がいます。例えば1988年9月、アメリカ太平洋北西区のヘレナクラブから来られたイラ・スティーンさんと夫ハー

ヴィ・ステーンさんです。彼らはカンパラにあるワイズメンズクラブを訪れていたのです。彼らを招待した昼食の場ではイラさんがワイズダムについてとても



刺激となるお話をしてくれました。その結果私は、アフリカ北西にあるカメルーンのドゥアラで開催された第5回アフリカエリア大会及び国際議会にオブザーバーとして参加をすることになりました。帰ってくる時にはメンバーを集めクラブをチャーターしようと思いついていました。そして1999年の12月、チャーター式が執り行われたのです。

それ以降もワイズダムへの情熱は冷めることなくアフリカワイズダムで数多くのオフィスを構えエリア会議や区大会を主催し、さらに4つのクラブと2つのユースクラブをスポンサーするまでになりました。現在は南スーダンやヤンビオ YMCA など新しい国にもワイズダムを広げる活動を行っています。2012-2013年度のジンジャの拡張事業として、ムバララやジュバ、南スーダンなどでワイズダムを組織化し新たなクラブをチャーターしたいと思っています。

BF事業はクラブにとって重要な刺激となっており、これまで4人のBF代表者をお迎えしました。スリランカから2人、インドとカナダから1人ずつです。私自身BF代表として2006年、太平洋北西及び太平洋南西に出向いた際に前BF代表でありジンジャワイズメンズクラブチャーターを記念して種を植えて下さったイラさん、そしてハーヴィさんと再会を果たすことが出来ました。

ユース・エンパワーリング

インド アシスタントエディター Koshy Mathew

面白いプロジェクトがインド、バンガロールワイズメンズクラブで発案・実行されその第一段階が無事終わりました。3年前の2009年、ヒンダスタンアカデミーの議長兼理事でありワイズメンズでもあるK.C.サミュエルさんが「賢いが貧しい学生」5人に対してアカデミーの雇用重視タイプコースの学費を負担すると宣言をしました。これがきっかけとなりクラブではユース活動を行う多くのNGO団体から選考に勝ち残った3人の学生を選び入学許可を与えたのです。

アカデミーは学費とその他経費を無料にしました。3年間のプログラムで、1人当たり12万5千INR(2千200ドル)になります。NGOの役割は学生の基礎的な部分、例えば家や宿泊地、交通手段、勉強の出来について監視しまた授業への出席を守っても

世を照らす光となろう



K.C. サミュエルさんが生徒から記念品を受け取りました

らうというものです。クラブの役割は教科書と制服の支給、定期的なNGOとの連絡によってこの機会をフルに活用出来るようにすることでした。

第1期生は2009年6月に入学しました。ShantiさんとJaiprakashさんはそれまで恵まれない環境におり、一人は日雇い労働者の息子で、もう一人は自給自足で暮らす農家の家の出身でした。Roshanさんはストリートチルドレンとしてマイソワ・ストリートをうろついていたこともありましたが、しかし5歳の時にNGO団体によって助けられその後ずっと暮らしている保護施設に引き取られました。

3人の教育を受けたいという夢が、このパートナーシップ事業によって実現しました。Shantiさんはコンピューター科学の3年コースを修了し小売りチェーン店で契約社員となりました。Jaiprakashさんは自動車エンジニアのコースを履修し、全ての学期末テストで高い点数を取ったことでインド・ヴォルクスワーゲンにより、より上級の研修を受けることが出来ます。Roshanさんはビジネスマネジメント(BBM)プログラムで学位を取得し、現在その結果待ちです。

クラブはこれを現在も継続しており、第2期生である4人が2013年の夏に卒業を予定しています。

アフリカユースのアクション

アフリカ PIP ベンソン・ワブール

2012年4月にムコノで開催された区のユースコンボケーションは大変な成功を収めました。ウガンダ、タンザニア、ケニア、ザンビアそしてジンバブエから60名のユースが参加しました。コンボケーションにはIPフィン・ペデルセンさん、ISG西村隆夫さん、PIPベンソン・ワブール、そしてAPフェミ・オダンタンさんの参加がありまた激励のお言葉も頂くことが出来て大変喜しく思っています。遠足、歌、お楽しみやダンスと友情もさることながら、ユースたちは重要なトピックについても議論を交わしました。例えばリーダーシップ、ワイズメンズの歴史について、地域社会への奉仕

について、部の報告、そしてヤングメンバークラブとエリア事業に何が必要なのか、等です。またコンボケーションの中で Arua と Kitgum のワイズユースクラブがチャーターされました。



ファミリーは10日間の間、ほんとうに忙しいくらい色々なプログラムを用意してくれました。私はあらゆることを見聞きました！砂の彫刻の展示を見学したり、フィヨルドで泳いだり、レゴランドの巨大遊園地を訪れたり、とにかく本当にたくさんの素晴らしい場所へ行くことが出来ました。

また Teen Eijyaer に混じりデンマークの学校で2日間を過ごしました。ロシアの学校とは何もかも勝手が違い、比較するのが面白かったです。デンマークの学校では規則が重要視されています。驚いたのは、食堂でご飯を食べた後に先生が指示を出すすと学生が自分たちでお皿を洗っていたことです。そして1日に2回、生徒はホールに集まり歌を歌います。ルールを破ることは固く禁じられています。子供たちは6時半に起床し20分で外に出なくてははいけません。朝のランニングがあるからです。ここで数多くの友人を作れたのは私にとって最も素晴らしいことでした。

私の初めての STEP in ワイズメンズワールド

ロシア STEP 交流生 Anna Sherbakova

今年の夏私はSTEPを通じてノルウェーとデンマークで4週間を過ごしました。私の旅はスタバングルでのユースコンボケーションで始まりました。とても忙しかったですが記憶に残る1週間になりました。私たちのリーダーがワイズメンズの活動について語り、その後はお互いを知るためにゲームをしました。野外活動も多く行いました。最も素晴らしかったのは、ブレイクストーンに上ったことです。岩の間や川を通りこけたり躓いたりしながら2時間かけて上り、ようやく一番上までたどり着きました。そこで信じられないほど素晴らしい景色を目にしたのです。山、フィヨルド、青々しい芝生そしてカラフルな家が遠く下のほうに見えました。てっぺんからは世界はパラダイスのように見えました。帰ってくる頃には皆へトヘトしたが、その甲斐がありました！素晴らしい写真と思い出が残りました。

スタバングルで過ごした後はSTEPプログラムを続行しノルウェーの他の都市を訪れました。毎回違うホストファミリーと滞在



しその度にあなたかおもてなしがあり、ノルウェーについての素晴らしいお話を聞けてとても良かったです。ノルウェーの文化、食べ物そして伝統

や法律について知ることが出来ました。ノルウェーはとても親切な国で、おもてなしとやさしさで一杯でした。

デンマークではスルーアという都市に滞在しました。ホスト



そしてSTEP最後の目的地はデンマークの首都であり素晴らしい街、コペンハーゲンです。デンマークの首都と呼ぶのにふさわしいとても美しい街でした。私を遠足に連れ出しその日家まで送り届けて下さったデンマーク人カップルのお二人に感謝します。この冒険を可能にしてくださった方やご家族の方全員のお名前をここで挙げることは出来ませんが、私のSTEPプログラムを実現させてくれた皆さんに心からお礼を申し上げます。

外国に行き人々の暮らしを実際に見るのは驚くほど楽しい経験でした。私の言語力も上がり、コミュニケーションバリアも克服したことで前よりも前向きでオープンになりました。私は今、ワイズダムファミリーの一員であることをとても強く感じています。

ワイズメンズワールド

2012/13年度 第1号

発行者:ワイズメンズクラブ国際協会

西日本区理事 成瀬 晃三(名古屋)

東日本区理事 駒田 勝彦(甲府21)

国際編集長 Allan Wallington

日本語翻訳・編集責任者 野村 秋博(名古屋東海)

日本版翻訳者 倉田 正昭(京都)、谷川 寛(大阪センテナル)、

谷本 秀康(東広島)、長尾ひろみ(宝塚)、青木 一芳(千葉)、後藤 邦夫

(東京まちだ)、中田 靖泰(札幌)、今城 高之(横浜つづぎ)、村野 繁(東京目黒)

印刷 株式会社三浦印刷所